

円安でみえた海外株投資の重要性



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 強まる円の先安観

主要通貨に対して円安基調が強まっています（右上図）。米ドル円は一時20年ぶりの円安水準となる1米ドル = 129円台まで上昇したほか、ユーロ円も一時1ユーロ = 140円台まで上昇しました。背景には金融引き締め姿勢を示す米欧中銀と、金融緩和継続姿勢を示す日銀といった各中央銀行の金融政策の方向性の違いがあります。米欧で長期金利が上昇する中、日本は日銀が金利上昇抑制策を採用していることもあり上昇が限定的で、金利差拡大から、円の先安観が強まっています。

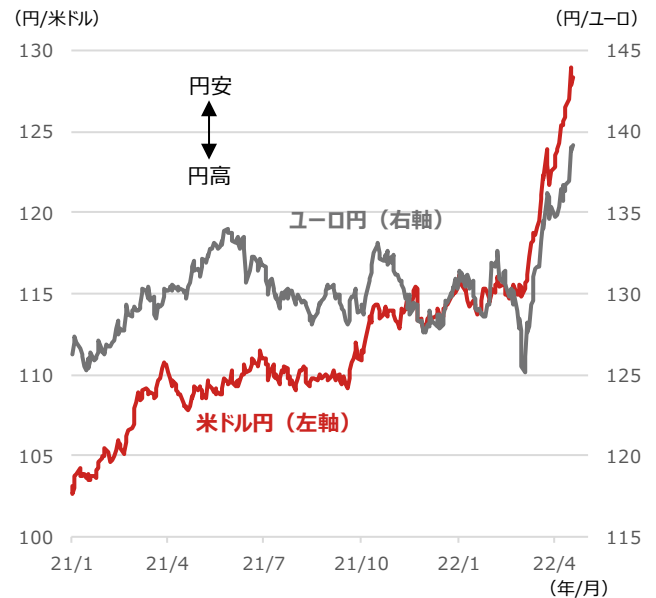
もっとも、4月27～28日に開催が予定されている日銀金融政策決定会合で、過度な円安を抑制すべく、政策の微調整が行なわれる可能性もあり、その場合は急速に進んできた円安の動きが一服し、一転円高に振れる展開も想定されます。

ポイント② 円安下での海外株投資の重要性

ただ、米欧中銀と日銀の金融政策姿勢の違いから、中長期的な円安基調が転換するまでには至らないと考えられます。円の先安観が強まる中では、海外株へ投資することも一手です。

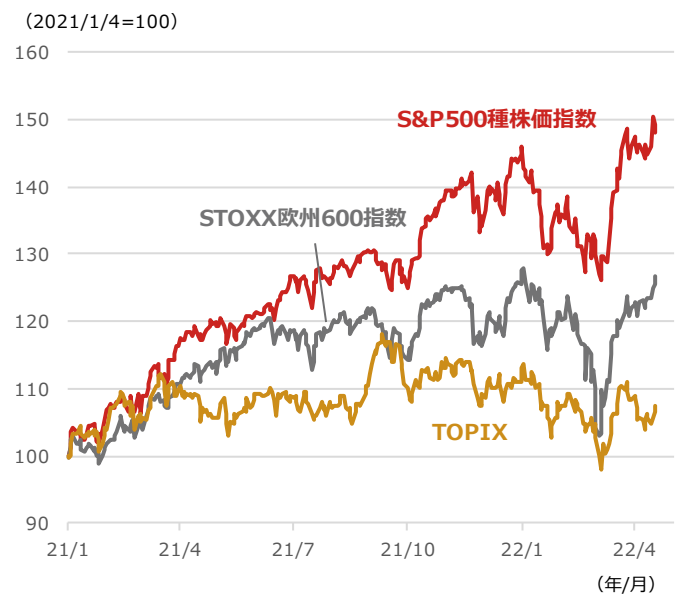
地政学リスクの長期化や中国のコロナ感染再拡大、米欧中銀の金融引き締め懸念等への警戒感から、世界的に株価は調整基調にあります。円ベースでみると別世界が広がっています。2021年初以降の主要株価指数を円ベースでみると、TOPIX（東証株価指数）はほぼ横ばいの一方、ストックス欧州600指数は最高値圏、S&P500種株価指数は4月19日に最高値を更新しました（右下図）。円安 = 日本株高という構図が崩れつつある現状を考えると、海外株に投資することで円安メリットを享受することも検討に値すると考えられます。

米ドル円とユーロ円相場



期間：2021年1月4日～2022年4月21日、日次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

日米欧主要株価指数（円ベース）



期間：2021年1月4日～2022年4月21日、日次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。